

平成30年度 事業報告

社会福祉法人
県西福社会

平成30年度 事業報告（前文）

平成30年度を振り返って

平成30年度は当法人にとって、平成13年4月1日の開設以来、経験したことのない苦境に見舞われた1年となりました。

それは、「求人難」であります。これまでも苦しい局面は幾度となく経験はしましたが、この1年の深刻さはこれまでをはるかに超えるものとなりました。

施設運営には「人材」が全てであり、私共に課せられた使命、責任を果たして行く上で不可欠の要素となる職員の確保に今後とも全力を挙げて取り組み、この危機を乗り越えてまいります。

事業の展開局面では、施設再整備3ヶ年計画の最終年次として、特殊浴槽ならびに空調設備の更新をもって、計画の全ての完了となりました。

社会福祉法人県西福祉会

理事長 松本信輔

◆◇◆ 目 次 ◇◇◆

経営方針	
足柄療護園・県西福祉センター・プレアデスの概要	... 1
1. 理事会・評議員会	... 2
2. 主要行事	... 3
3. 組織体制	... 4
4. 職員状況	... 5~7
5. 足柄療護園の状況	... 8~12
6. 県西福祉センターの状況	... 13~14
7. プレアデスの状況	... 15~17
8. プレアデスホームの状況	... 17
9. ふくらんの販売状況	... 18
10. ボランティア活動の状況	... 19
11. 健康管理の状況	... 20
12. 給食の状況	... 21
13. 権利擁護の状況	... 22
14. 安全管理の状況	... 23
15. コミュニティ(地域交流)の状況	... 24
16. 広報の状況	... 24
17. 渉外関係(家族会・実習生/研修生等)他	... 25
18. 施設再整備計画の推進状況	... 26
平成30年度 部門別重点実施事項実施報告	... 27~28

★経営方針

《 使命 》 職員的情熱と地域社会の支持によって
利用者安心の施設を目指します

《 基本理念 》

私達は、自らの使命を認識しながら、そこに辿り着くため、施設運営に当たっては、その基本理念を**自主・参加・安心**と定めます。私達の施設は、集団生活を避けることはできませんが、集団生活の故に発生しがちな「管理」、「画一」、「指示」、「規制」を極力、排し、利用者個々人の「自主性、主体性」を尊重し、当事者としての「参加」と「決定」を大切にしながら、家族ともども「安心感」のもてる生活の場を築きます。

自主・参加・安心

《 長期目標 》

利用者満足の実現

福祉プロ集団への進化

地域福祉の活性化

★足柄療護園・県西福祉センター・プレアデスの概要

平成31年4月1日現在

足柄療護園 (障害者支援施設)	県西福祉センター (障害者通所施設)	プレアデス (障害者通所施設)	プレアデスホーム (障害者グループホーム)
施設入所支援 60名	生活介護 30名	生活介護 15名	共同生活援助 36名
生活介護 60名	機能訓練 6名	就労B型 30名	
短期入所 6名	就労B型 15名	日中一時 15名	
	相談支援	相談支援	

◆ 沿革 ◆

平成11年 8月	社会福祉法人県西福祉会 法人認可
平成13年 4月	身体障害者療護施設足柄療護園 開設 身体障害者デイサービス県西福祉会センター 開設
平成18年10月	生活介護事業・相談支援事業 開始
平成19年 4月	自立訓練(機能訓練)事業 開始
平成20年 4月	障害者支援施設(生活介護)へ事業移行
平成20年 7月	就労継続支援B型事業 開始
平成22年 4月	プレアデス(生活介護・就労B・共同生活援助)事業開始 プレアデス日中一時事業(小田原市・南足柄市)事業開始
平成24年 4月	県西福祉センター生活介護棟開設 / プレアデス福泉事業所開設
平成24年 7月	プレアデスホーム いずみホーム開設
平成25年 4月	プレアデス福泉 製造棟開設
平成25年 7月	プレアデス福泉「ふくらん」開設
平成26年 4月	プレアデスホーム やまさきホーム「シリウス」「リゲル」開設
平成27年 3月	プレアデスホーム やまさきホーム「カペラ」「スピカ」開設

1. 理事会・評議員会

(1) 理事会

第1回	5月25日 理事6名 監事2名	第1号議案 平成29年度 事業報告(案)について 第2号議案 平成29年度 決算報告(案)について 第3号議案 平成30年度 第1回評議員会の開催(案)について 第4号議案 諸規程の改正(案)について
第2回	10月26日 理事6名 監事2名	第1号議案 平成30年度 資金収支補正予算(案)について 第2号議案 平成30年度 事業中間報告(案)について 第3号議案 平成30年度 資金収支中間報告(案)について 第4号議案 新棟建設(案)について 第5号議案 入浴設備等の更新(案)について 第6号議案 運営規程の一部改正(案)について 第7号議案 平成30年度第2回評議員会の開催(案)について
第3回	3月15日 理事6名 監事2名	第1号議案 平成30年度 資金収支2次補正予算(案)について 第2号議案 平成31年度 事業計画(案)について 第3号議案 平成31年度 資金収支予算(案)について 第4号議案 平成30年度 第3回評議員会の開催(案)について

(2) 評議員会

第1回	6月8日 評議員7名 監事2名	第1号議案 平成29年度 決算報告(案)について 説明事項1 平成29年度 事業報告について 説明事項2 社会福祉法人県西福祉会定款細則の改正について
第2回	11月9日 評議員6名 監事2名	説明事項1 平成30年度 資金収支補正予算について 説明事項2 平成30年度 事業中間報告について 説明事項3 平成30年度 資金収支中間報告について
第3回	3月18日 評議員8名 監事2名	説明事項1 平成30年度 資金収支2次補正予算について 説明事項2 平成31年度 事業計画について 説明事項3 平成31年度 資金収支予算について

(3) 基盤整備小委員会 (生沼理事・柴田理事・守屋理事・小澤評議員)

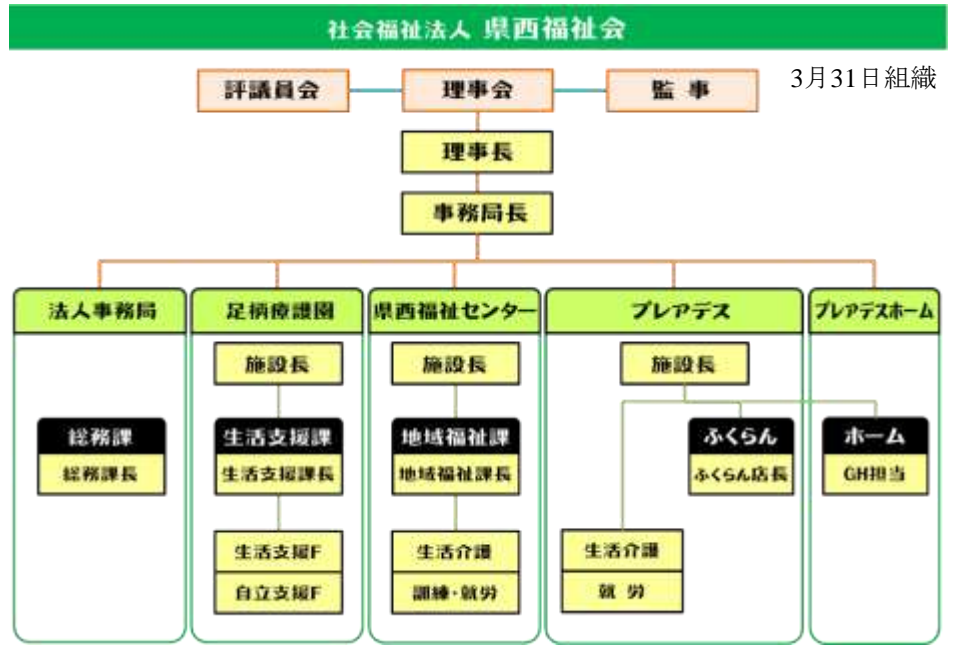
第1回	4月26日	委員長選出 / 足柄療護園空調設備更新工事入札
第2回	11月27日	足柄療護園入浴設備等更新工事入札
第3回	2月 1日	足柄療護園入浴設備等工事完了の確認

2. 主要行事

月	施設行事	法人・職員	地域・家族 他
4	施設外活動(花見)【足】【プ】 スポーツ大会【足】 / 避難訓練【プ】【ホ】	避難訓練【プ】【ホ】 基盤整備小委員会	下田組主催花見【ホ】
5	健康診断【足・ホ】 施設外活動(平塚総合公園)【足】 チャレンジ遠足【プ】	健康診断 監事監査 理事会	家族会総会【足】 ボランティア食事会【足】 高浜高校 利用者講演
6	プレアデス祭/みんなのつどい【プ】 避難訓練【足&セ】 カラオケ大会【足&セ】 施設外活動(箱根園)【足】	評議員会 プレアデス祭 職員会議 避難訓練【足&セ】	プレアデス祭 みんなのつどい【プ】 大井高校 利用者講演
7	スポーツ大会【足】 / グループ外出【プ】 施設外活動(プラネタリウム)【足】 七夕行事【足】【セ】【プ】	「ふくらん」5周年	各自治会夏祭り出店【ふ】 小田原養護学校夏祭【プ】 厚木市森の里地区民児協見学【12】
8	卓上ゲーム大会【足&セ】 施設外活動(映画)【足】 流しそめん【足&セ】 家族交流BBQ【プ】 下田組合同BBQ【プ】	全身協研修大会派遣 家族交流BBQ【プ】	各自治会夏祭り出店【ふ】 家族交流BBQ【プ】 下田組主催BBQ【プ】 市教育研究会(技術・家庭科部会)【ふ】 小田原養護学校職員研修【12】
9	避難訓練【足&セ】 県ローリングハレー大会【足&セ】 納涼会【足】 一泊旅行(TDS)【プ】	職員会議 避難訓練【足&セ】	
10	秋まつり/作品コンテスト 健康診断【足】/スポーツ大会【足】 施設外活動(小田原散策他)【足】 ボーリング大会【プ】 利用者研修会【プ】/避難訓練【プ】【ホ】	理事会・ 秋まつり 避難訓練【プ】【ホ】	秋まつり<家族会共催> 大井高校 実習受入 小田原短大 利用者講演 南足柄市立足柄台中学校 講演 横浜市港南区女性団体連絡会【41】
11	インフルエンザ予防接種【足・ホ】 県文化ステージ発表【足&セ】 カラオケ大会【足&セ】/避難訓練【ホ】 焼き芋会【足】/おもちゃつき【プ】 施設外活動(紅葉見学)【足】	評議員会/評価面接 ディズニー新人研修 職員健康診断(夜勤者) 基盤整備小委員会	大井高校 実習受入 北里大学 利用者講演 相模原市麻溝地区社協【27】 中央医療健康大学校1年生【42】
12	卓上ゲーム大会【足&セ】 クリスマス会【足】【セ】【プ】 年末年始外出【ホ】 県卓上競技大会【足&セ】	職員会議 避難訓練【足&セ】 意思決定支援研修	家族会・施設清掃(家族会) GH家族大掃除【ホ】 日本女子大学 利用者講演 西湘地区文化事業【プ】 南足柄小学校2年生見学【ふ】 茨城県土浦市新治地区民児協【18】
1	新春イベント&成人を祝う会【足】 成人を祝う会【プ】 書初め【セ】 施設外活動(和菓子作り他)【足】	特殊浴槽更新工事 大型乾燥機等更新工事	
2	節分行事【足】【セ】カラオケ大会【足&セ】 施設外活動(ちぼり)【足】 伊東一泊旅行【ホ】		茅ヶ崎リハ専門学校利用者講演 千葉県木更津市清川地区社協【18】
3	自分発表会【プ】 避難訓練【足】 ホワイトデー企画【足】 スポーツ大会【足】 施設外活動(花見他)【足】 / 花見【セ】 文化作品展示会【足】	ふれあいセミナー 理事会・評議員会 職員会議 避難訓練【足】	ふれあいセミナー 南足柄小学校4年生見学【ふ】 家族会役員選出【足】 ちいきふくし博【足&セ&プ】 災害想定送迎訓練【プ】 小田原市早川地区民児協【12】 茅ヶ崎市小出地区社協【20】

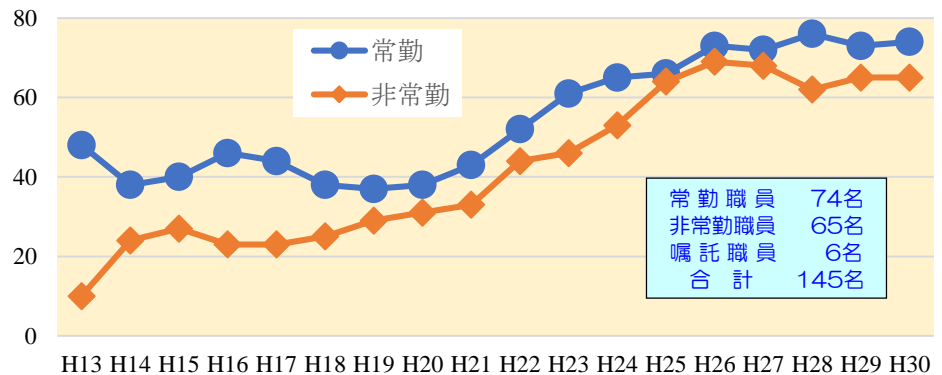
3. 組織体制

(1) 組織体制



(2) 職員数

年度末の職員総数は前年から2名増え145名である。常勤職員の退職者は6名。同9名を採用したが人員不足の状況で、積極的な募集活動をしているものの補充に苦戦している。



H13 H14 H15 H16 H17 H18 H19 H20 H21 H22 H23 H24 H25 H26 H27 H28 H29 H30
職員数の推移(3月31日現在の職員数)

(3) 職員配置

3月31日現在の各事業の配置職員は、指定基準を満たしている。

職種	足柄療護園		県西福祉センター		プレアデス		プレアデスホーム	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤
管理者	1名		1名		1名		1名	
サビ管	2名		1名		1名		2名(兼務)	
医師		6名		1名(兼務)		1名(兼務)		
看護師	2名	9名	1名(兼務)		1名(兼務)			
生活支援員	28名	6名	11名	6名	19名(兼務)	10名	12名(兼務)	
指導員			1名	1名	1名	1名		
訓練担当	1名(兼務)	2名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)	1名(兼務)			
世話人							11名(兼務)	15名
その他	3名	8名		3名				

3月31日現在

4. 職員状況

(1) 労働条件の改定等

7月に1及び2等級の常勤職員及び非常勤職員の昇給を実施した。また、10月には最低賃金改定にかかわる対応を行った。平成31年4月の働き方改革関連法案の改正に伴い有給休暇の取得にかかわる常勤並びに非常勤職員の就業規則を改正し、同時に非常勤職員の有給休暇の基準日を4月1日に統一し、取得状況の管理の簡素化をはかった。

(2) 職員研修

計画に基づき、階層別に施設内研修を実施した。新任職員対象に恒例のディズニーランドで開催するサービスのあり方研修(参加5名)を実施した。ふくらの職員においては、HACCP導入に伴う研修を実施した。一方、計画していた感染症対策研修については、職員不足の影響から見送ることとした。

①施設内研修実施状況

職員研修	テーマ	講師	対象者	参加者
6月21日	防災研修	相日防災	全体	28
9月19日	感染症	感染症スペシャリスト職員	全体	35
10月30日	統合失調症とは	地域生活センターひまわり 建部氏	全体	25
12月20日	意思決定支援	日本障害者協議会 赤平氏	全体	31
12月20日	防災研修	相日防災	全体	15
2月22日	認知症について	認知症看護認定看護師 田中氏	中堅	19
3月28日	救命救急研修	小田原消防	全体	20
6月21日	防災研修	相日防災	全体	28

②スキルアップ研修実施状況(業務時間扱い・自由参加型)

日程	テーマ	講師	参加者
8月30日	防犯	松田警察署	12
7月26日	自閉症	行待GH担当・石川課長	18
11月29日	虐待防止	山ローダー・宮崎サブリーダー	23
1月25日	コミュニケーション	猪川ST	12

③施設外自己啓発(SDS)

自己啓発制度を活用し、コミュニケーション障害学会や神奈川県言語聴覚士会の研修会や県西生涯保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター主催の研修会に参加した。

④人財育成塾実施状況 参加者は指名

テーマ	対象者	日程	時間	講師
ディズニーリゾート研修(支援力向上研修)	新任職員 5名	4日間	21.5時間	スターコンサルティンググループ 糠谷和弘氏
9月27日、11月6日～7日(TDS)、3月26日				



ディズニー研修:他法人にも呼び掛けし、全国から福祉施設職員30名が集まり合同で研修を実施した。

⑤施設外研修受講状況（21企画延べ29名参加）

内 容	参加者	主 催
全国身障施設協 研究大会	府川晴紀	全身協
全国身障施設協 職員スキルアップ研修	山岸直広・迫田建一	全身協
関ブロ職員支援力アップ勉強会	持丸晴香	関東甲信越ブロック
南関東・甲静ブロック協議会セミナー	柴田和生	全国経営者協議会
新任福祉施設等職員合同研修	村田美里・鈴木真琴	神奈川県社協
初任者キャリアパス対応研修	村田美里・鈴木真琴・寺林啓太・秋山智弘	神奈川県社協
高次脳機能障害セミナー	石川宗伸	神奈川県総合リハ
苦情解決研修会「基礎編」	山岸直広	運営適正化委員会

※その他、神奈川県身体障害者療護施設協議会等の研修へ参加

(3) 会議・委員会

年間日程に基づき計画的に会議を開催した。

各委員会の活動を通じ、**リーダーシップの発揮**をはじめとした、職員の能力開発と**組織運営への参加**をはかった。

名 称	内 容	開催数	メンバー
職員会議	施設運営及び職員に係る事項について提起し、職員間の意思疎通をはかる	4回	全職員
運営会議	施設運営及び職員に係る事項について検討し、組織の一体化を推進する	12回	理事長、事務局長、部長、施設長、課長、店長、医務課リーダー
わくわく委員会 (日中活動)	クラブ活動や外出支援等、日中活動の企画・検討を行い、充実した日中活動を目指す	6回	◎岸、府川、露木、西川(晃)、鈴木(匠)、森本、神羽、(良知)
いきいき委員会 (生活向上)	利用者自らが自立した生活を実現するための能力を身に付けていく視点で検討する	6回	◎菅沼、宮崎、山岸(里)、柘植、阿部(達)、保科、(山口)
さくさく委員会 (業務改善)	業務の効率化を実現し、職員の負担を軽減し、より充実した利用者支援につなげる	6回	◎迫田、阿部(礼)、持丸、藤田、加藤、(石川、山口、良知)
リスクマネジメント 委員会	利用者が生活を送る上での安全安心確保と介護事故の防止をはかる。権利擁護の推進をはかる。	6回	◎阿部(達)、石川、山口、良知、佐々木、露木、丹羽、増田、太田、P松橋、(山岸、平田)
ボランティア 委員会	ボランティアの誘致、受入れ及び対応にかかわることについて検討する	6回	◎山岸(里)、府川、神羽、加藤、奈良場、大川、土屋
研修委員会	職員の研修にかかわること、研修会の企画・開催について検討する	6回	◎宮崎、竹内、持丸、迫田、菅沼、臼井、P古沢、大熊
衛生委員会	労働災害及び疾病の防止対策を行い、快適な作業環境の実現を促進する	12回	◎七海、田中、野村Dr.、森本、阿部(礼)、根本NS、(山岸)
広報委員会	広報誌『やまぶき』の編集・発行を行う。広報にかかわることについて検討する	4回	◎宮内、五味、保科、猪川、P寺林、大熊
短期入所受入 検討会議	短期入所利用者情報の共有と受入にかかわる業務等の調整を行う	12回	◎増田、山岸(直)、石川、山口、五味、NS、(佐々木)
食のあり方 検討委員会	ソフト食の提供にかかわる課題の整理や食事観察の必要な方の支援を行う	6回	◎猪川、石川、山口、赤池、金子、NS、(平田、山岸、佐々木)(日清)

(5) 委員会活動報告

委員会名	委員長	年度実施報告
わくわく (日中活動) 委員会	岸	9月に「納涼会」を開催し、昼の部でははじめて盆踊りの指導をボランティアさんに依頼した。夜の部では恒例の花火を実施した。 新春イベントに合わせ、施設創設以来初の「成人を祝う会」を開催し、新成人をみんなでお祝いした。 湯河原で和菓子作りなど新たな外出先を選定し実践した。
いきいき (生活向上) 委員会	菅 沼	「ふくらん」商品の販売に向け検証を重ね開始する事ができた。販売を行うにあたって課題を見つけ適宜ルールを更新を行った。 外部事業所に聞き取りを行い、委員会内で選定を行い支援員、利用者にも有効に活用できる「外部事業所一覧表」を作成した。 ぶらりランチは8回実施し、延べ10名(実利用5名)が「はま寿司」にでかけた。
さくさく (業務改善) 委員会	迫 田	日常業務で使用する様式類の内容の見直しや様式の変更等について検討を重ねてきた。また、ASPモニタリング、年度末総合評価等の記載方法の整理などで、ペーパー類の削減や記載に関する時間短縮につながった。 さらに、業務の簡素化の検討や必要な用具類についても検証を行った。 インカムの導入については、費用対効果で折り合わず今回は断念した。
リスク マネジメント 委員会	阿 部	リスクマネジメント報告、ヒヤットと共有書の内容共有と対策の検討を行い、介護事故への意識向上につとめた。また、ヒヤットと共有書の様式を変更し、より提出しやすくなるような工夫を行った。 身体拘束及び行動制限に関する事項の検討、及び解除に向けた取り組みを実施した。 / 12月には全職員に対し人権チェックアンケートを実施した。
ボランティア 委員会	山 岸	ボランティア活動数、延べ1500名を目指し1490名の誘致を行うことができた。 近隣の高校・大学・専門学校などへ、電話連絡やポスターの発送を定期的に行ってきたことにより、学校との連絡調整の基礎を作ることができた。 プレアデスでは目標300に対し216名であった。 5月に親睦を兼ねた食事会を立食形式で開催し52名が参加した。
研修委員会	宮 崎	事前に職員へ研修内容に関するアンケートを実施し、受講の希望に合わせた研修内容を検討し開催することができた。 専門分野については外部講師を依頼し開催し、一方では、職員が講師役を務めて開催する研修も多く企画した。 3月にふれあいセミナーを実施した。
衛生委員会	七 海	定期巡回を通じ、他部署の改善点等の意見交換を行い職場環境改善に具体的に取り組むことができた。また、各部署の業務体制の見直しや残業削減に向け委員会で業務状況の改善提案の検討も行なった。 また、職員親睦会の活動再開に向けて委員会から発信し、職員全体で共有していける職場環境づくりに着手した。
広報委員会	宮 内	『やまぶき』を季節ごと年4回発行し、利用者・ご家族、関係機関等へ約650部を印刷し配布した。 年間掲載記事の一覧表を作ったことで作成がスムーズに進んだ。 恒例の写真販売も継続して行った。今後はさらに利用者や家族に関心が行くような写真をピックアップしていきたい。

(6) 労働衛生

5月30日に職員125名に対し健康診断を実施し、所見のある職員が28名おり、医師診断をすすめた。夜勤従事者は11月に嘱託医師による健康診断を実施した。また、健康保険加入職員50名に対してストレスチェックを実施した。衛生委員会において、施設内の巡回チェックシートにより職員労働環境の定期確認を実施した。

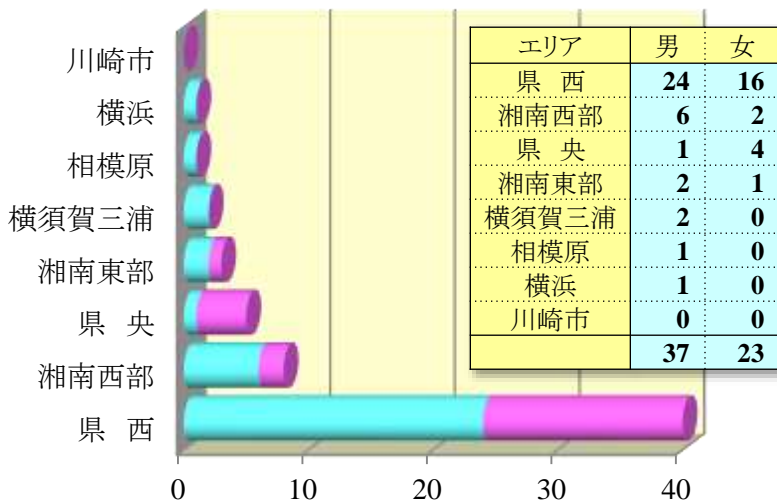
5. 足柄療護園の状況

(1) 施設入所支援

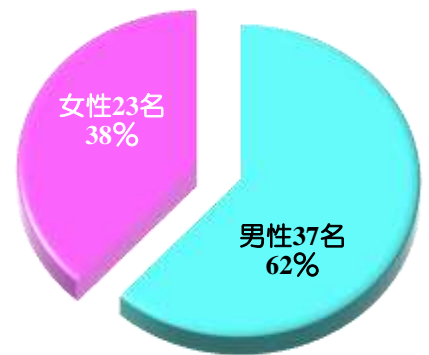
満床でスタートし認知症症状が顕著となり1名が高齢者施設へ移行し、3名が急変や体調を崩され病院搬送されるも亡くなられ、1名が病状の進行による医療ケア増大のため、計5名が退所した。5名が新たに入所し年度末では満床を維持している。全体的に障害支援区分による重度化だけでなく年齢の上昇等により支援が増加している。

① 利用者の状況 (年度末現在;入所者数60名)

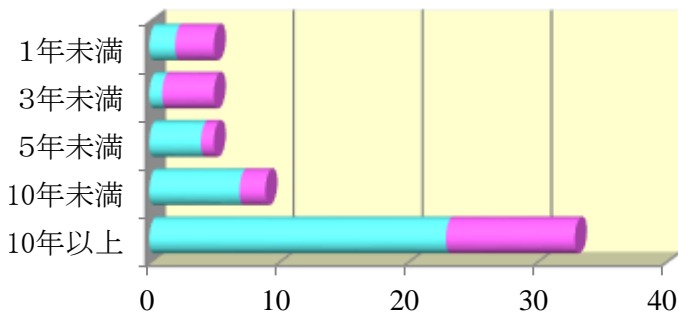
A.地域別入所者数:県西地区が40名(67%)を占める。



男性が37名(62%)。
女性が増加傾向である。

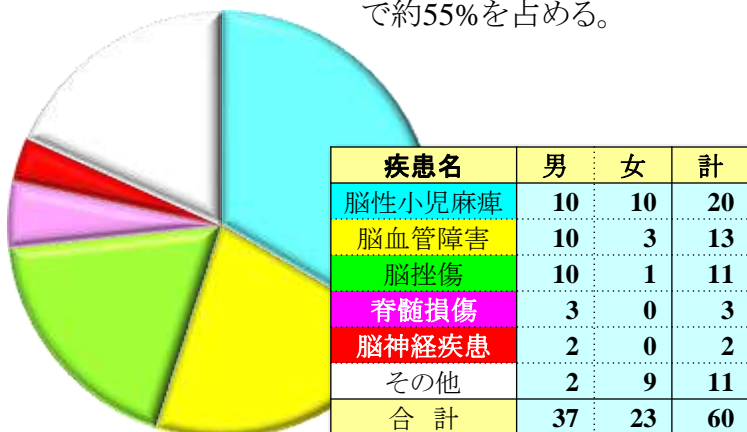


B.在所期間:10年を超えた方は33名で55%。

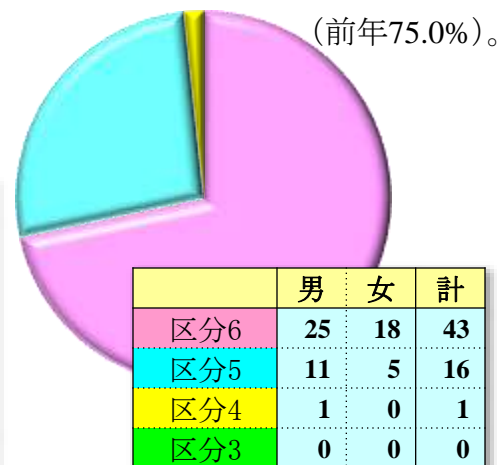


	男	女	計
1年未満	2	3	5
3年未満	1	4	5
5年未満	4	1	5
10年未満	7	2	12
10年以上	23	10	33

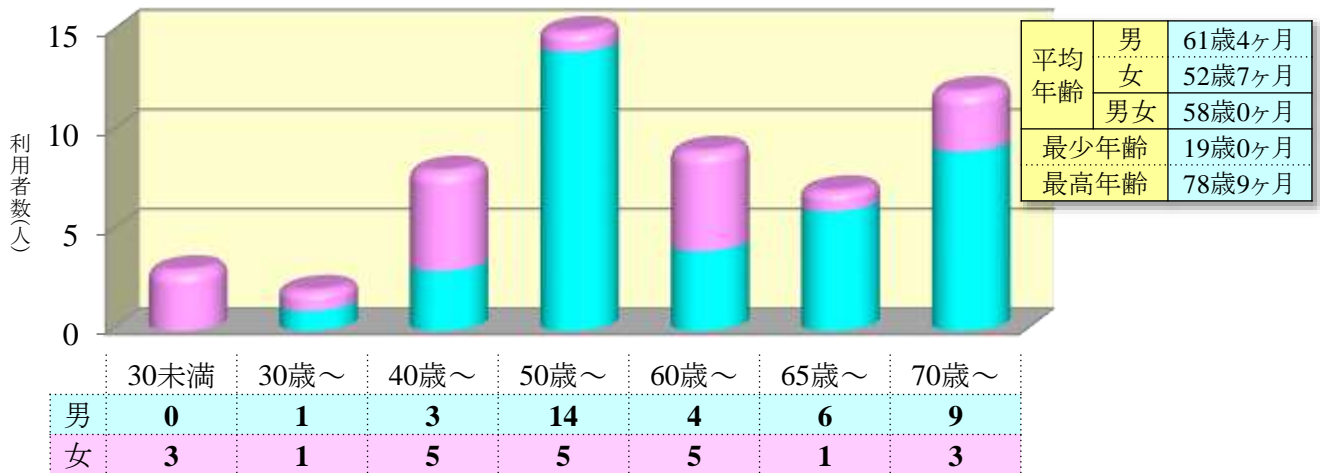
C.疾患別原因:脳性マヒ・脳血管障害の方
で約55%を占める。



D.障害支援区分:区分6 が71.7%
(前年75.0%)。



E.年齢別:平均年齢は58歳。70歳以上は12名。

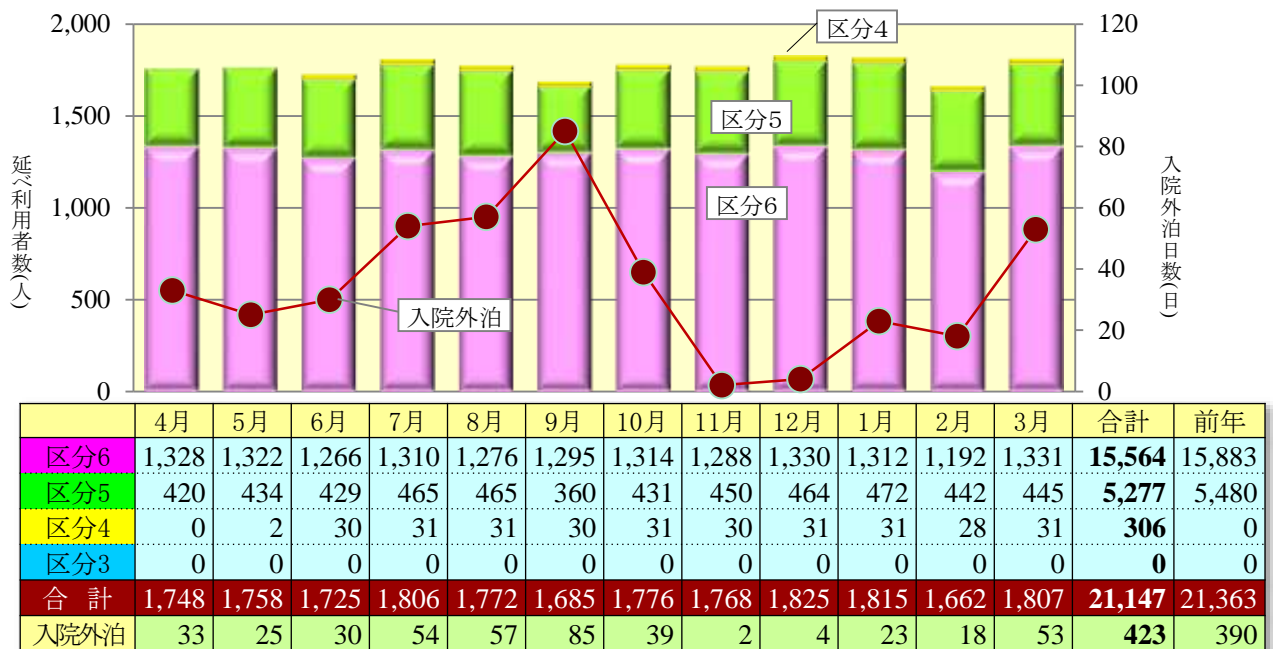


②個別支援

利用者支援の体制をグループ化したことにより、中堅職員によるフォローアップなど、職員一人一人の意識向上と個別支援の実施へとつながった。通常的生活支援に重点を置きつつも、本人や家族からの要望の多い外出の支援について、福祉タクシーなどの他事業所との連携を強化して、外出を行うことができるよう支援を行った。

③利用状況

5名居住者の退所に伴う、入所者検討に当たっては、利用者全体の支援量が増大していることを鑑み、入所希望者のアセスメントに加え総合的な支援量を考慮しながら決定した。予期せぬ急変による退所が多く迅速な補充ができず空床期間が長かったことに加え、短期間ではあるものの前年度に比べ入院者数の増加も利用数減少の要因となった。



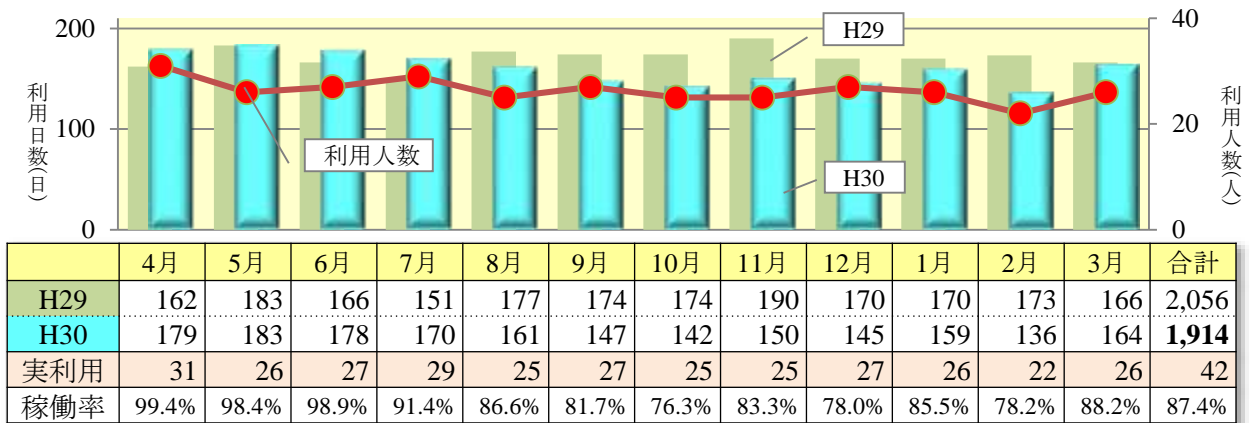
(2) 短期入所の状況 定員6名

短期入所利用の希望が高く、入所者の空床も利用し、登録者**54名**(前年53名)に対し、実利用42名(前年41名)年間**延べ1914日**(前年2056日)のサービス提供を行い、**平均ベッド稼働率は87.4%**(前年93.9%)であった。稼働率の低下の原因は、体調不良などによるキャンセルが239日と多かったことによる。

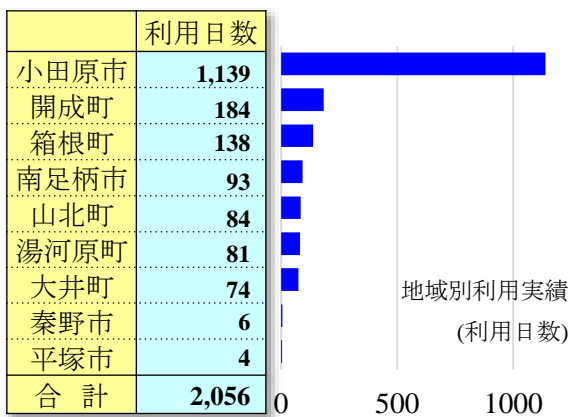
「短期入所受け入れ検討会議」を毎月開催し、利用者の情報共有を行なった。

①利用者の状況(3.31現在)

A. 利用実績: ベッド稼働率は**87.4%**(前年93.9%)で、延べ利用日数は1,914日であった。

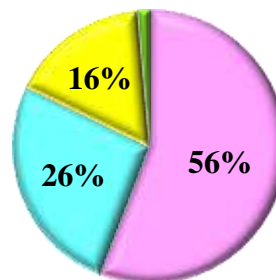


B. 域別利用状況: 小田原市が約6割を占める。



C. 障害支援区分別

区分5と6で約79%を占める
平均障害支援区分は5.29
(前年5.30)



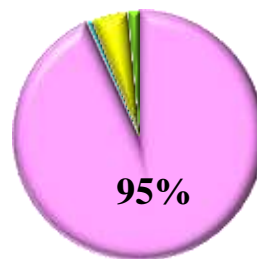
	日数
区分6	1,030
区分5	484
区分4	302
区分3	26
区分2	0

障害支援区分(利用日数)

②地域拠点事業所配置事業の状況

地域拠点事業所配置事業「あんしんネット」の補助事業は9年目となり、**25名**(前年29名)の登録、実利用**14名**の方に対し**延べ170名633日**(前年162名663日)のサービス提供を行った。利用者はより重度化しており区分6の方の利用が約95%を占める。

また、県からの受託事業である「地域ネットワーク強化事業」において、圏域の関係機関との会議や研修機会を通じ連携強化をはかった。



	日数
区分6	599
区分5	4
区分4	30
区分3	10
区分2	0

障害支援区分(利用日数)
※上記内数

(3) 活動支援の状況

① クラブ活動等

11のクラブ活動等で、178回(前年192回)、延べ3,080名(前年3,255名)の参加となった。一方でパステルアートや手づくり教室などの創作的活動を取入れ、参加総数は前年を上回った。

参加希望の多い音楽クラブは、指導ボランティアの高齢化に伴い、年2回の開催となった。日中活動は、ボランティアの支援で支えられているところもあり、今後の活動のあり方について検討を開始した。

カラオケ大会や卓上大会、スポーツ大会、作品コンテストの開催を通じ、通所利用者と入所者との交流を深める機会を作るとともに、日常の活動への意欲的な参加につなげた。

クラブ名	回数	参加	平均
スポーツクラブ	15	403	26.9
音楽同好会	2	59	29.5
カーレット	6	154	25.7
創作クラブ	13	316	24.3
卓上クラブ	20	439	22.0
ローリングハレー	12	259	21.6
華道クラブ	6	124	20.7
カラオケクラブ	51	899	17.6
園芸	2	21	10.5
パソコン	39	340	8.7
陶芸クラブ	12	66	5.5
小計	178	3080	17.3
手づくり	13	269	20.7
パステル	12	193	16.1
ネイルアート	3	26	8.7
合計	206	3568	17.3

カラオケ大会	
6月27日	参加11名/観客25名
11月14日	参加11名/観客33名
1月17日	参加12名/観客25名
2月14日	参加10名/観客25名
卓上ゲーム大会	
8月2日	参加19名
12月26日	参加18名
スポーツ大会	
4月26日	ボーリング 参加38名
7月25日	ゴロ卓球 参加35名
10月31日	運動会 参加39名
3月14日	カーレット 参加37名
作品コンテスト	
10月17日	応募数201作品
～21日	217名の投票により選考



各大会実績

クラブ活動等の実績

② イベント・余暇活動 (アクティビティ)

法人全体で取り組む「秋まつり」は、10月第3日曜日に開催し、晴天に恵まれ650名ほどの方々で賑わい、地域との交流を深める機会となった。

季節ごとのイベントは、わくわく委員会を中心に食のあり方検討会も協力し企画し、8企画を開催し、参加者は443名であった。



節分会



流しそうめん

月	イベント	参加数
7月	七夕会 (ハーモニカ演奏)&[アイス]	44
8月	流しそうめん	60
9月	納涼会(昼の部) 盆踊り	52
9月	納涼会(夜の部) 花火大会	45
11月	焼き芋会	59
12月	クリスマス会 (ハンドベル演奏)	44
2月	新春イベント(ボーリング) & 成人を祝う会	43
2月	節分会 (子供ピアノ演奏)	45
3月	ホワイトデー [チョコフォンデュ]	51

③ 買物外出・施設外活動

長時間の買物外出の実施や施設外活動を実施した。基本的に一対一の支援が必要であるが、南足柄市社協ボランティアやご家族、延べ12名の協力を得て実施した。小グループに分かれての外出で年間60ルート(前年47)で110名(前年118名)の方が出かけた。

外出先	回数	人数	外出先	回数	人数
カラオケボックス	2	9	すたみな太郎[ランチ]	3	9
平塚総合公園	2	5	ビックボーイ[ランチ]	1	2
プラネタリウム	2	5	ちぼり(クッキーパイク)	1	2
自然見学(花見・紅葉)	2	5	ステーキガスト[ランチ]	1	2
ブレアデス祭	1	4	買物外出		
小田原漁港&鈴廣	1	4			
箱根園	1	3	シティーモール	11回/30名	
小田原散策	2	3	イトーヨーカ堂	4回/8名	
和菓子作り(湯河原)	1	3	ららぽーと平塚	2回/7名	
フラワーガーデン散策	1	2	ダイナシティ	1回/1名	



フラワーガーデン散策

※この他、2名が映画鑑賞に出かけた。

④ 施設外大会・発表会への参加

例年通り、神奈川県身体障害者施設協議会主催の県大会等に参加した。

9月22日	第28回 神奈川県ローリングバレーボール大会	入所 8名 通所 11名	入所:入賞なし 通所:入賞なし
11月17日	第24回 身障施設 文化ステージ発表会	入所 5名 通所 0名	タイトル「足柄クラシックス」 歌と演奏
12月1日	第51回 身障施設対抗卓上競技大会	入所 6名 通所 0名	はさみ将棋3位入賞
3月11日	第23回 身障施設 利用者作品展示会	----	32作品
3月17日	第19回 ローリングバレーボール大会[ぱっする杯]	入所 0名 通所 0名	今回は不参加

⑤ “ぶらり外出” “ぶらりランチ”

人気の企画である“ぶらりランチ”について、南足柄市社協の有償支援「えぷろん」の協力を得て7回開催し、実利用6名延べ13名が「はま寿司」に出かけた。

⑥ 飲酒・喫煙

毎週、金曜日の夕食後に飲酒希望者を対象に喫茶コーナーにて飲酒サービスを実施している。10名(前年5名)の飲酒希望のうち定期的に飲酒されている方は4~5名である。利用者の喫煙は喫煙所にて可能で、受動喫煙防止条例に準拠した対応となっている。

⑦ 特殊浴槽の更新

施設再整備三カ年計画の一環で、特殊浴槽の更新工事を行った。利用者の障害特性を鑑み、ラダリバスとカトレアの2台を導入したことにより、利用者、職員ともにより安楽な入浴を行うことができるようになった。



6. 県西福祉センター(生活介護・自立訓練・就労継続・相談)の状況

毎月好評の第四土曜日の食事イベント等を継続実施するなど、年間利用人数11,000名の目標をかかげ運営したものの、長期入院が多く、また足柄療護園への入所移行などもあり、前年を11.0%下回り8,964名(前年10,068名)、1日平均は29.1名(前年度32.6名)であった。登録者数は91名で前年の92名とほぼ同数であり、一人当りの利用日数の減少の影響が大きい。

【生活介護事業】 ❖入所施設への移行者が例年に比べ多く、足柄療護園へ2名、他の施設へ4名が移行した。延べ利用人数は6.7%減の4,133名(前年度4,428名)、1日平均13.4名(前年度14.3名)であった。入退所状況は、新規利用者9名、退所者12名であった。

【機能訓練事業】 ❖延べ利用人数は前年度より24%減の820名(前年度1,080名)となり、1日平均2.7名(前年度3.5名)であった。入退所状況は、新規利用者6名、退所者7名であった。利用減少が止まらず、定員数を12名から6名に減員した。

【就労継続支援B型事業】 ❖個々の能力に応じ作業提供を行ってきた。自立訓練終了後に移行する方が多いものの、前年度より12%減の延べ利用人数4,011名(前年4,560名)、1日平均13.0名(前年度14.8名)であった。入退所状況は、新規利用者3名、退所者6名であった。

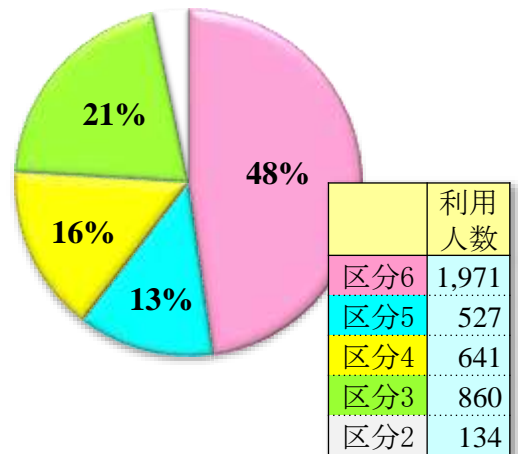
(1) 利用者の状況(3.31現在) 定員(生活介護30名/自立訓練6名/就労継続15名)

①地域別利用者延べ数(小田原市56%、南足柄市22%)

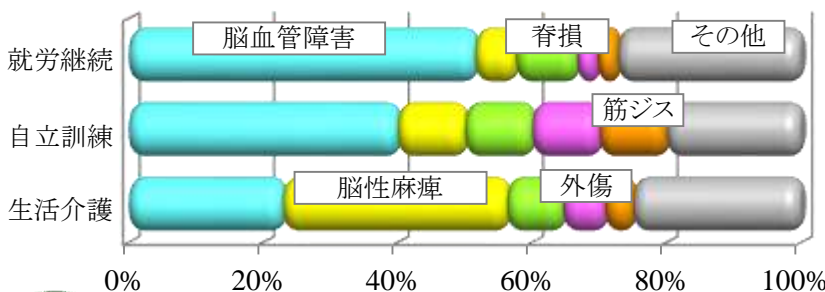
②生活介護利用者障害支援区分

	生活 介護	自立 訓練	就労 継続
小田原市	2,096	444	2,475
南足柄市	804	193	957
開成町	417		228
大井町	363	84	147
山北町	230	83	162
湯河原町	147		
中井町	52		
箱根町			32
松田町		16	10
真鶴町	24		
合計	4,133	820	4,011

平均障害支援区分 4.8(前年4.8)



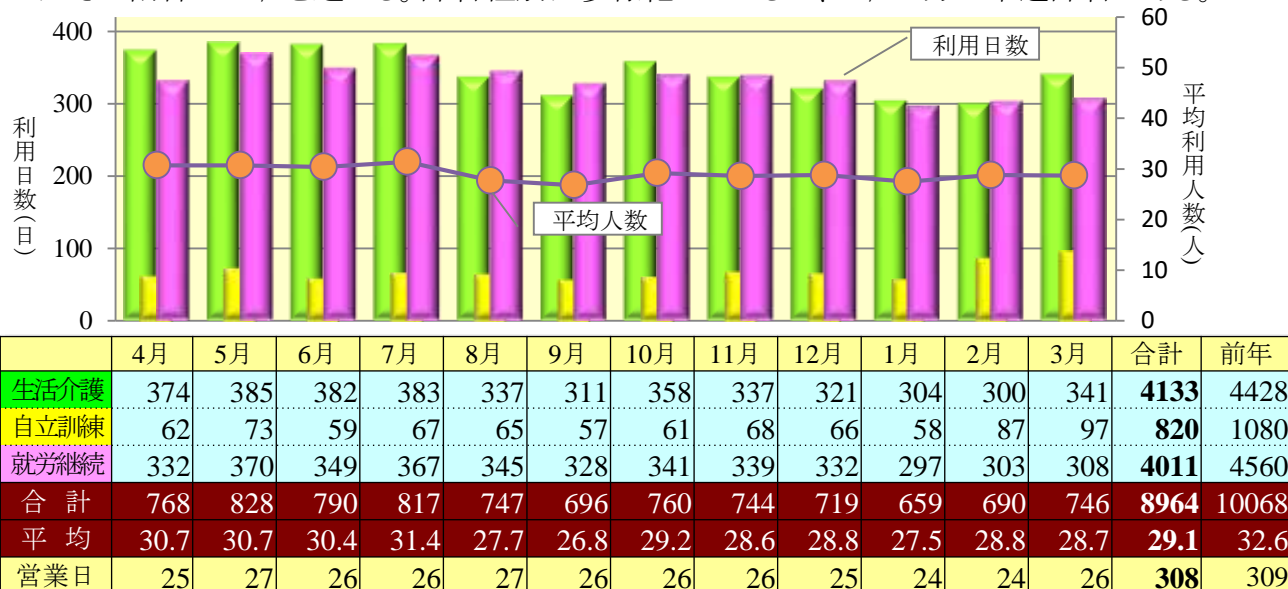
③疾患別原因:障害の原因が多岐にわたっている



	生活 介護	自立 訓練	就労 継続
脳血管障害	11	4	17
脳性麻痺	16	1	2
脊髄損傷	4	1	3
頭部外傷	3	1	1
筋ジス	2	1	1
その他	12	2	9
合計	48	10	33

(2) 利用状況

年間利用人数は1万人を大きく下回った。特に就労支援B型事業の減少が大きかった。行政別では小田原市の方が各事業共に多く、全体では56%を占め、特に就労支援B型事業ではその割合が60%を超える。障害種別は多様化しているが、77%の方が中途障害である。



(3) 利用者工賃の支給状況

就労B型の登録者は**33名**(前年末35名)となった。新たな受注先を確保し切れ目なく作業提供ができた。一人あたりの利用日数が減ったことにより、平均工賃は前年度より440円減の**月平均 4,147円**(前年4,587円)となった。また、時給換算は前年同額の135円であった。

(4) 日中活動の状況

生活介護では毎週の活動や毎月のイベントに合わせて、ボランティアによる絵本の読み聞かせを隔月に行った。毎月開催の食のイベントでは3事業所の利用者同士の交流をはかった。また、3月30日には外出企画として運動公園へ桜見学に出かけた。

活動名	回数	参加	平均
手話サークル	52	429	8.3
卓球&カラオケ	43	220	5.1
絵本タイム	6	32	5.3

活動実績

食のイベント開催状況(参加者数)

(5) 相談支援事業

新規利用相談は、入浴と機能訓練の相談が多い。相談は相談支援事業所からが最も多く、次いで病院からの問い合わせが多い。地域別では小田原市からの相談が15件で全体の75%を占める。サービス利用計画作成は、全体で58名、内訳は足柄療護園入所者48名、在宅サービス利用者10名である。

生活介護相談	9件
訓練相談	8件
就労継続相談	3件
入所相談	件
短期入所相談	件

7. プレアデス(生活介護・就労継続・日中一時・相談)の状況

生活介護及び就労B型の年間利用者数は前年を若干下回って**13,042名**(前年13,147名)、1日平均**35.7名**(前年度36.0名)の実績であった。登録者63名でスタートし年度末では**64名**(生活介護23名、就労B41)となった。生活介護の利用者の障害支援区分は平均で**5.26**(前年5.7)であった。1月には生活介護の利用者を中心に、インフルエンザが流行し、生活介護のみ1週間の事業所閉鎖をすることとなった。また、利用者の要望や障害特性、利用者同士の相性などに配慮し、送迎ルート並びに送迎方法について年3回見直しを実施した。

【生活介護事業】

❖今年度は軽作業班に対して定期的に見直しを行ったことにより、年度当初10名だった対象者に新たに3名が加わり13名が軽作業に従事する事が出来るようになった。そのうち、4名が就労Bからの仕事を請け負い、平日3時間の作業に従事することができた。重度の利用者の方も個別支援計画に基づき支援を実施した結果、活動時間のメリハリが付く様になった。

【就労継続支援B型事業】

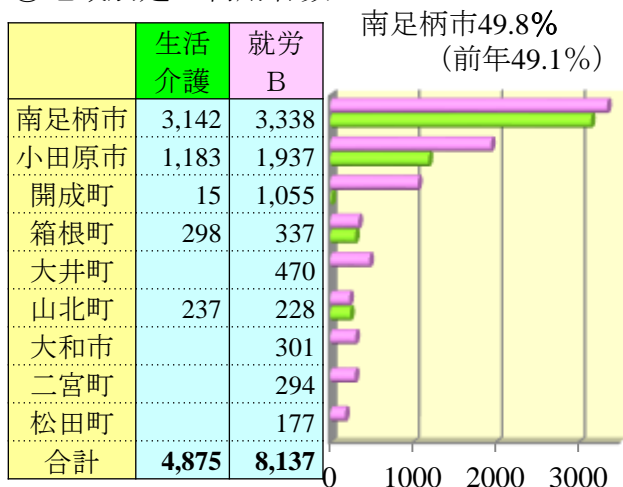
❖精神的に落ち着かない利用者に対して、定期的な面談や集中力の維持できる時間等を考慮し、随時作業について見直し、利用者各々に適した作業提供を行った結果、精神面の影響による作業効率の低下に改善が見られた。また、一部の利用者に対して専属の作業役割を持たす事でやりがいや自信に結びつける事ができた。意識を高めて作業に取り組むようにするため、作業着の着用を行うこととした。

【日中一時事業】

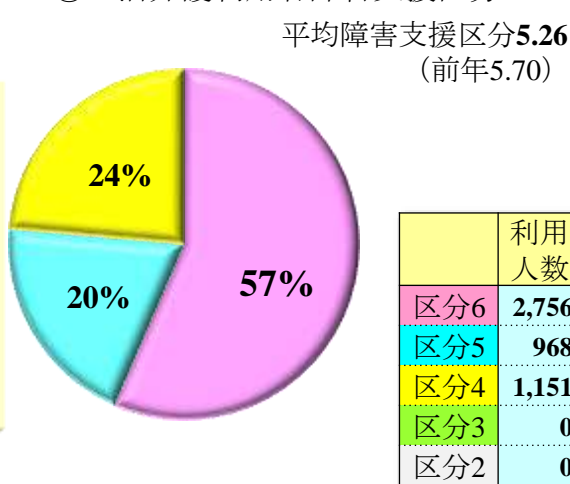
❖職員体制の不足から、利用者及び家族、また受託行政機関である小田原市、南足柄市と協議し、サービス提供時間を16時から17時までの1時間とした。日中一時の記録の在り方を見直し、統一した記録様式・記録方法を実施した事により、記録に掛かる業務時間短縮に結びつくことが出来た。

(1) 利用者の状況

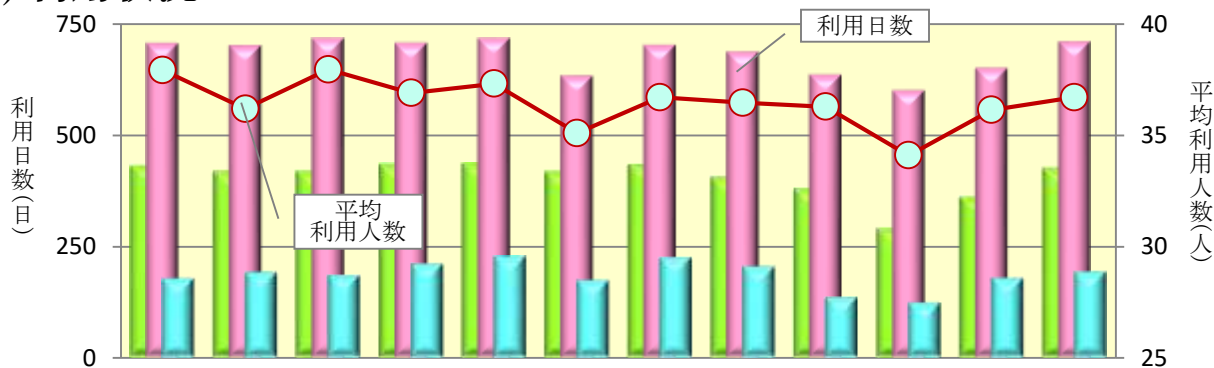
①地域別延べ利用者数



②生活介護利用者障害支援区分



(2) 利用状況



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年
生活介護	432	421	421	437	439	420	436	407	381	291	362	428	4,875	5,152
就労継続	706	701	718	707	718	633	702	687	635	600	650	710	8,167	7,995
合計	1,138	1,122	1,139	1,144	1,157	1,053	1,138	1,094	1,016	891	1,012	1,138	13,042	13,147
平均	37.9	36.2	38.0	36.9	37.3	35.1	36.7	36.5	36.3	34.1	36.1	36.7	35.7	36.0
営業日	30	31	30	31	31	30	31	30	28	23	28	31	365	365
日中一時	178	192	186	212	229	174	226	205	136	124	179	194	2,235	1,901

(3) 利用者工賃の支給状況

一般就労に向けての支援と、工賃額アップを目標に支援を行い、プレアデス福泉(就労B型)の平均工賃は全体で13,796円と前年比より**72円向上**した。軽作業グループの平均は8,792円、ふくらんでは23,449円であった。

	H30	H29
プレアデス全体	13,796	13,724
ふくらん以外	8,792	8,672
ふくらん	23,449	24,056

平均工賃実績

(4) 相談支援事業

施設利用について**26件**(前年32件)の相談があり、22件で見学や体験利用を実施した。そのうち生活介護1名、就労B2名、ホーム2名が利用につながった。生活介護では重度の知的障害、身体障害との重複、重心児童と支援的に重く、知的・身体・医療の狭間の方が多く見受けられた。就労Bでは、精神障害のケースの割合が大多数を占めた。

生活介護相談	9件
就労継続相談	8件
入所・GH相談	9件
その他	26件

(5) 日中活動

生活介護では第2水曜日に創作活動を実施し、作品が県西地区文化事業で「ヒルトン賞」を受賞した。就労Bでは利用者が主体となって取り組む研修で「清潔」をテーマに開催し、また3月には自分発表会を開催した。



西湘地区文化事業での発表

(6) 施設外活動

夕日の滝で開催したバーベキューにはご家族も含め総数128名が参加した。また、恒例のディズニーへの一泊旅行へは54名(利用者39名)が出かけた。みんなのつどいや県西地区文化事業など地域福祉事業所で取り組む行事へも参加した。県のスポーツ大会への参加にも支援を行った。就労Bでは、最乗寺へのチャレンジ遠足に26名が参加した。



ディズニー泊旅行

(7) 地域交流

恒例のプレアデス祭は晴天に恵まれ、盛大に開催することができた。ふくらんの出張販売のお声掛けをいただいた際には積極的に参加し、特に夏祭りでは13の自治会や駒千代観音まつりで出張販売を行い地域交流を深めた。

ふくらんには、南足柄小学校2年生30名や4年生99名が見学に来られた。



プレアデス祭は晴天に恵まれ
400名近い方々にぎわった!

8. プレアデスホーム (共同生活援助定員36名)

体験利用を経て2名の利用者(男性2名)と契約に至った。ホーム全体では、定員36名に対し31名となった。やまさきホームは23名の利用者数となった。利用人数の増加にともない、行事や外出などの支援をユニット単位で実施した。各棟3名の世話人の配置が進み、毎月、各棟単位で世話人会議を実施し、利用者個々の生活を把握し、引継ぎや支援方法の情報共有の強化を行った。

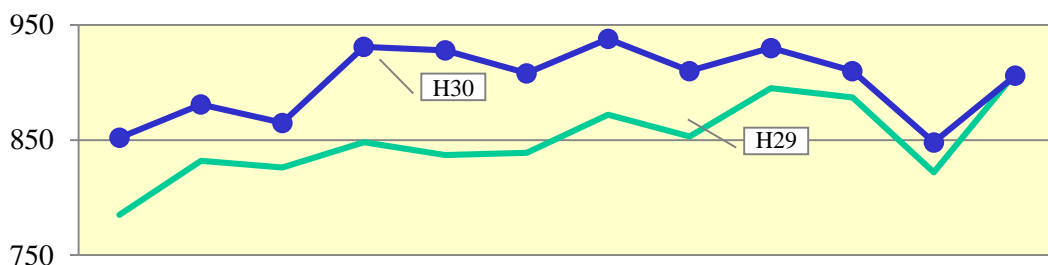
A.入所者の性別及び人数



B.障害支援区分

区分	あまつぼ			いずみ			やまさき			計	1	2	3	4	5	6	7	8
	男	女	計	男	女	計	男	女	計									
6	1	2	3				1	1	4									
5				1		1	2		2									
4		1	1				3	3	6									
3				2		1	4		4									
2	1		1			1	8	1	9									
1							1		1									

C.月別利用人数実績



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用日数	852	881	865	931	928	908	938	910	930	910	848	906	10,807
入院日数	0	21	18	0	0	5	4	0	0	0	0	31	79
外泊日数	49	28	17	30	33	17	19	20	31	51	20	24	339
前年	785	832	826	848	837	839	872	853	895	887	822	908	10,204

2月2日から1泊2日で、**県西地区グループホーム交流会**が、伊東市サンハトヤホテルで開催され、15名が参加し、他法人のグループホーム利用者との交流をはかった。また、利用者の休日等の余暇活動としてホーム単位での**夕食外出**や**酒匂川花火大会鑑賞**など定期的に企画し、利用者同士の交流を深めた。8月のバーベキューには利用者12名ご家族6名が参加し、12月の**年末大掃除**では、日程を調整しながら声掛けした結果、利用者26名ご家族や後見人など15名に参加協力が得られた。

9.ふくらん販売状況

(1) 販売状況

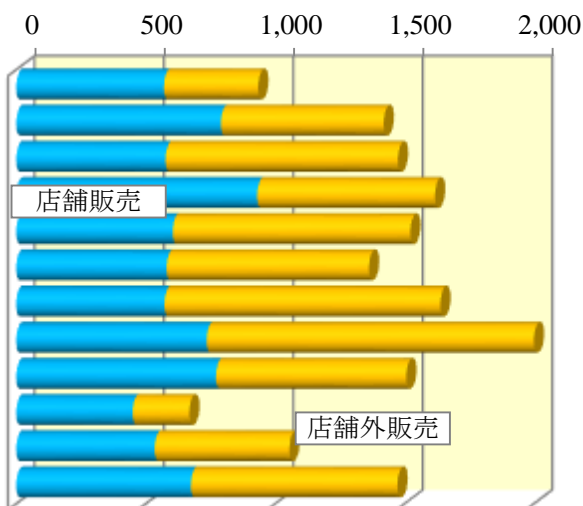
年間の販売実績は前年並みの1704万円であった。店舗では季節毎のフェア、5周年セール等の企画を行い、タウンニュースの毎月の広告やSNSなどにより認知度向上をはかった。新商品として、ラズベリーシュー、アールグレイティーシュー、スイートポテトシューを発売した。

ラスカ等大型店舗での出張販売や、富士フィルム、第一生命等の企業、地域の小中学校、高校、養護学校、短大などでの定期販売、また小田原百貨店等の定期納品(委託販売)先の開拓もすすめた。(株)しいのOEM商品を製造し、東海キオスクベルマートで販売した。

新規に1名が利用を開始し登録利用者数は15名、1日平均利用者数は**8.0名**(前年7.1名)となった。ふくらん利用者の年間平均工賃は**23,449円**(前年24,056円)であった。

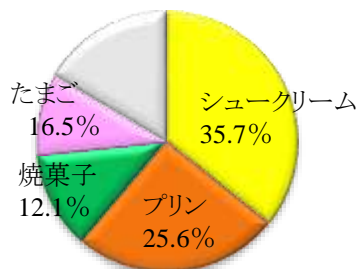
◆月別販売実績(単位:千円)

	店舗	店舗外			売上 合計	前年 売上
		小計	外販	受注等		
4月	571	364	133	231	935	1,093
5月	791	629	357	271	1,420	1,447
6月	577	898	536	362	1,475	1,462
7月	931	687	423	263	1,618	1,609
8月	605	918	676	242	1,524	1,436
9月	581	782	423	359	1,363	1,551
10月	573	1,066	799	267	1,640	1,592
11月	736	1,629	1,104	525	2,365	1,960
12月	772	735	380	355	1,507	1,495
1月	450	219	35	184	669	1,395
2月	535	521	414	108	1,056	1,010
3月	675	798	575	222	1,472	1,427
合計	7,797	9,246	5,856	3,390	17,043	17,477



◆店舗部門別販売実績(レジ集計値)(単位:千円)

部門	売上	構成比	販売数	前年売上
シュー	2,810	35.7%	15,538	3,000
プリン	2,012	25.6%	10,990	2,138
焼菓子	948	12.1%	4,566	942
たまご	799	10.2%	3,753	930
その他	1,297	16.5%	2,836	1,231



※レジ集計値なので、現金売上金額とは若干異なる

(2) 取り組み

小田原短期大学食物学科と連携し、8月2日に「第3回たまごスイーツコンテスト」を開催した。27エントリー中一次審査を通過した7企画の中から、プレゼンテーション・試食審査を行い最優秀作品を決定した。

足柄台中学校及び城山中学校2年生、各2名ずつの**職場体験**を受入れた。また、8月23日に南足柄市内の小中学校の技術・家庭の教職員向け研修会(プリン作り)を行った。12月には南足柄小学校2年生30名、3月には4年生99名の見学が行われた。

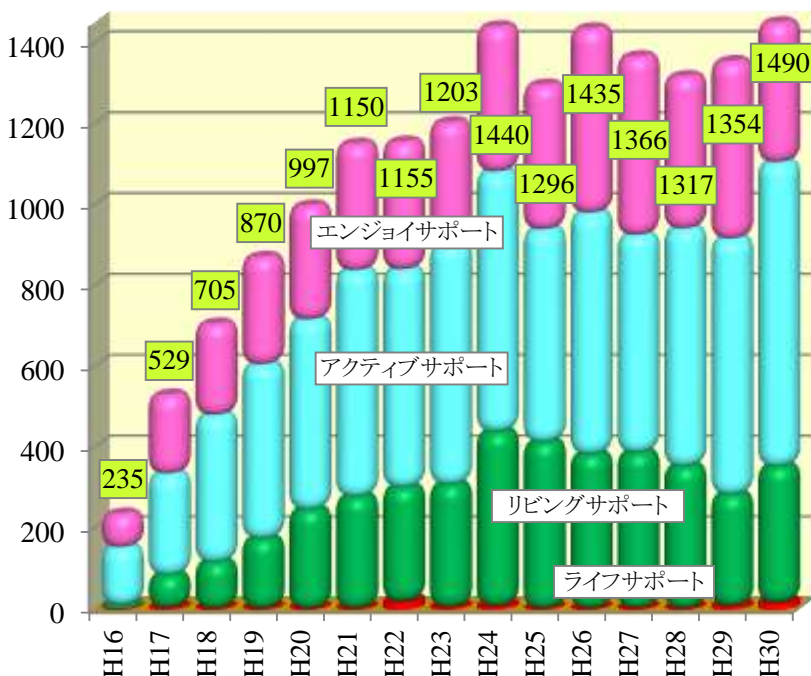


第3回たまごスイーツコンテスト

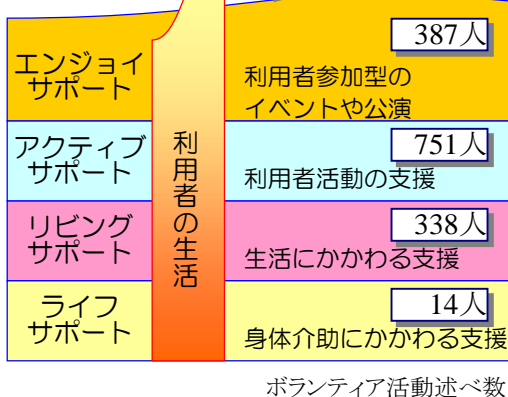
10. ボランティア活動の状況

(1) ボランティア実績

年間ボランティア数の目標を1,500名とし取り組み、**1,490名**（前年1,354名）の活動誘致を実現した。特に学校に対して電話やチラシ配布など積極的に誘致活動を行い、学生の活動は**109名**（前年69名）に達した。クラブ活動については、地元の**いずみ地域福祉会**の献身的な取り組みで**504名**のボランティア活動を得て、日中活動の充実がはかられた。また、リビングサポートの「縫物ボランティア」がスタートしたことで、衣類の繕いなど業務面でも助かっている。プレアデスにおいては300名の目標を掲げ、**216名**（前年205名）を受入れた。



利用者の生活面から、ボランティアの活動を四つの階層に区分し、それぞれの階層ごとにボランティアの活動を誘致している。



(2) ボランティアイベント開催状況 **44回1,335名**（前年45回1,336名）が参加・鑑賞した。

催事	参加	様子	催事	参加	様子	催事	参加	様子
車いすダンス 矢車草の会	194名 /5回		ピアノ&ドラム ピクルス	194名 /6回		絵本タイム とんちゃん	96名 /6回	
おはなし 青い鳥	79名 /3回		子供ピアノ リズムカ	78名 /2回		ハワイアン カマカハワイアンズ	77名 /2回	
小田原 奇術クラブ	59名 /2回		アニマル セラピー	57名 /3回		大正琴 華音	55名 /2回	

(3) ボランティア食事会

日ごろのボランティア活動に感謝し、5月23日にボランティアの方々をお招きし、職員との懇親を兼ね食事会を開催した。**52名**の方が参加した。



11. 健康管理の状況

(1) メディカル

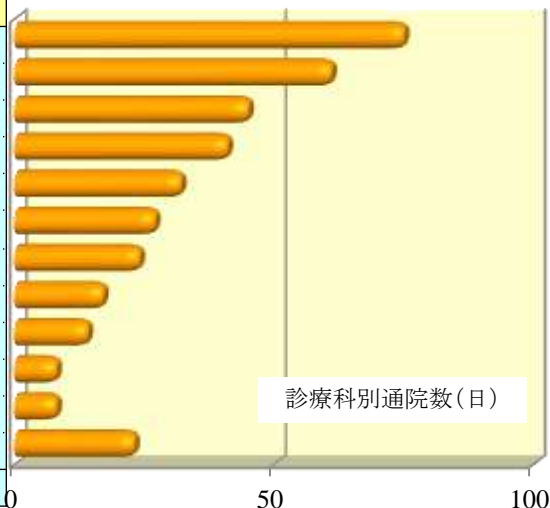
歯科検診を年2回実施し、口腔ケアのアドバイスを受け歯科受診の減少につながった。通院数は年間375件(前年421件)、入院日数は延べ24名364日(前年349日)であった。

通院/入院実績

	通院			入院		
	人数	延人数	H29	延人数	日数	H29
歯科	22	75	138			
内科	25	61	90	4	77	152
神経内科	10	41	46			59
耳鼻咽喉科	11	45	32			3
眼科	6	14	24			
脳神経外科	5	27	19	3	29	
外科	8	24	19	2	29	
泌尿器科	9	32	18	5	53	23
皮膚科	5	17	15	2	26	14
精神科	5	8	10	2	90	62
整形・形成	4	8	3	2	36	19
その他	11	23	21	5	41	17
合計		375	435	24	364	349

	対象者	件数
膀胱洗浄	4	109
摘便	5	228
義眼洗浄	1	104
褥瘡	6	421
経管栄養	3	1,085
バルーン交換等	1	5
その他	吸引 / 皮膚科処置 / 胃瘻・膀胱瘻処置 / 眼科処置 / 採血 / 気切部処置	

入所者の日常的処置実績



※その他の入院は、すべて救急外来。

(2) リハビリ (訓練等サービス)

リハビリテーション実施計画書に基づき、個別リハビリテーションを行い、身体・認知機能の維持・向上をはかった。また、少人数のグループ訓練を併用し、応用的な能力の獲得を支援した。チームアプローチを徹底し、利用者の高齢化・障害重度化に対応した。

機能訓練等

訓練の必要性に応じ、理学療法士を中心として機能維持訓練を実施した。

生活の中での訓練を重要視し、生活に根差した訓練プログラムの立案をした。また、身体機能に合わせた車いす等補装具の調整提案をした。

言語訓練

必要に応じ摂食嚥下機能の評価を行い、訓練や食形態の調整等を行った。

高次脳機能・コミュニケーション能力の向上など目的別小グループ訓練を継続した。

教育機関、地域コミュニティーなどにむけた利用者講演活動を継続した。

音楽療法(月2回実施)

音楽の持つ生理的・心理的・社会的働きを用いて、心身の障害の回復、機能の維持改善、生活の質の向上、行動の変容などをはかった。

目的別に4種の小グループを構成し、音楽の特性を生かし各機能の向上を促した。

	利用人数	延べ数	事業別			
			H29	入所	県西	プレ
言語訓練	57	1,484	1,260	692	661	131
機能訓練	47	1,501	1,623	783	718	
音楽療法	44	549	579	448	101	
グループセラピー	10	262	256	262		
合計		3,796	3,718	2,185	1,480	131
訪問マッサージ	29	2,885	2,487			

※訪問マッサージは、マッサージ業者と利用者個人の契約によるもの。

12. 給食の状況

(1) 食事提供実績

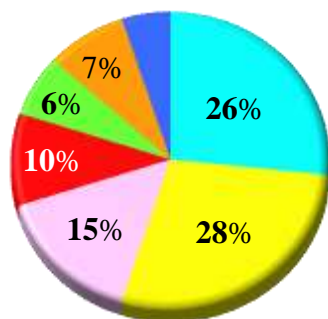
厨房は、足柄療護園とプレアデスホームの2箇所で開催しており、プレアデスホームの厨房では、ホームの食事とプレアデス通所の昼食を提供している。給食管理はともに、栄養士業務も含めて日清医療食品㈱に業務委託している。合計提供食数は、県西福祉センター、プレアデスの通所部門が減少し、110,407食であった。

食のあり方検討会において食形態やソフト食等の内容について検証を行うとともに、食のイベントの検討確認を行った。

① 食事の提供形態; 入所者の常食は26% (前年25%)

	食数
朝食	32,798
昼食	44,536
夕食	33,073
合計	110,407
施設	59,522
短期入所	3,335
県西福祉C	8,763
プレアデス	11,742
ホーム	22,398
職員他	4,647

4月～3月 給食提供実績



入所者の食事形態

	入所	県西
常食	16	89
一口大	17	10
1cm大	9	5
きざみ	6	4
超きざみ	4	4
ミキサー	5	6
経管栄養	3	4
合計	60	122

3.31現在

② 栄養量

	足柄療護園	プレアデス
カロリー	1712 k ^{カロ}	2025 k ^{カロ}
たんぱく質	65.7 g ^{グラム}	71.4 g ^{グラム}
脂質	49.1 g ^{グラム}	50.0 g ^{グラム}
カルシウム	592m ^{グラム}	603m ^{グラム}
塩分	7.5 g ^{グラム}	7.6 g ^{グラム}

(カロリー制限食も含む)

③ 食事費用概算

給食費は、入所利用者より1日1,430円をいただいている。(短期・通所は朝400円・昼650円・夕食550円)

給食費総額から算出した、ひとり当たりの1日の給食にかかわる費用は1,890円であった。

	平成30年度	平成29年度
業務委託費	37,778 千円	37,778 千円
食材費	34,264 千円	34,795 千円
給食費合計	72,573 千円	72,573 千円
1食当	653 円	653 円
1日当	1,890 円	1,888 円

※給食にかかわる光熱費は含まず。

(2) 食のイベント

誕生日メニューやちょっと贅沢を味わう「お誕生日メニュー」やイベントによる食事提供を行った。

4月4日	お花見弁当
5月5日	カツオたたき
6月21日	あじさい弁当
7月7日	七夕そうめん

9月24日	お月見メニュー
10月21日	手打ちそば
12月25日	クリスマス
1月1日	お正月メニュー

2月3日	恵方巻き
3月3日	ひなまつり

その他、毎月地域の御膳を提供。

(3) 給食検討会

利用者参加もしている給食検討会を年2回開催した。会議には、調理師や委託業者の担当者も加わり、給食に対する要望の実現に向け検討を適切に行った。

開催日	参加者
6月20日	利用者10名 業者4名
1月22日	利用者7名 業者3名

給食検討会開催状況

(3) 食のあり方検討会

隔月で「食のあり方検討会」を開催し食形態やソフト食の推進について検討を重ねた。「食事観察依頼書」「食事観察経過評価用紙」を用いて、適切な食事形態の確保に他職種で取り組んだ。加齢による摂食嚥下機能の変化を随時評価し、安全な食事提供を徹底した。とろみ添加量増大に伴うテクスチャーの変化や経済的な負担について検討をした

13. 権利擁護の状況

(1) 苦情の受付状況

平成30年度は苦情の申し出はなかった。

(2) K-フレンズの活動

※K-フレンズ =かながわ身体障害福祉ネットワーク
(身体障害者自らが主となる権利擁護・苦情解決ネットワーク)

足柄療護園に毎月来園し、利用者から**35件の相談**を受け、施設への報告のもと適切に対処した。また、**給食検討会への参加及び助言**や各種情報をいただいた。

(3) KWネットの活動

※KWネット =県西地区障害者施設権利擁護ネットワーク
(県西地区で活動するオンブズマン組織)

年4回の相談日の他、施設イベントにボランティアとして3回参加していただき、利用者との交流を深めた。また、利用者ご家族からの相談についても受けていただいた。

(4) 身体拘束ゼロに向けた取り組み

身体拘束マニュアルに沿って、ご本人ご家族と同意のうえ、実施している内容のうち、足柄療護園入所者**10名14項目**(前年11名13項目)、短期入所利用者7名10項目(前年9名13項目)、通所を含め**合計27項目**が身体拘束・行動制限に該当している。解除した方は**3名**であった。

拘束内容	目的	件数
ベッド柵	転落防止	6
センサー設置	外出防止	4
トイレテーブル	座位保持	3
トイレベルト	座位保持	2
胴体ベルト	転落防止	3
車いすベルト	転落防止	4
その他		5

身体拘束状況

(5) 成年後見制度等利用の推進

足柄療護園入所者60名のうち、現在**16名**が制度を利用し1名が検討中である。プレアデスホーム利用者31名のうち後見制度利用は**9名**となり、社協の安心サービス利用は**8名**となっている。

(6) 人権チェック調査結果

12月に職員に対して、利用者支援にかかわり自らを省みる機会として、また利用者の人権を尊重するうえで必要な心構えを共通の認識とすることを目的に『**人権チェック**』調査を実施した(回答75名)。

平成29年の調査結果と比較すると、全体的に評価が上がった。評価は改善したものの『他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある』項目が最も低い評価であった。また今回新たに加えたストレス的な項目の評価も低かった。さらに、『身体拘束』『呼び方』『放置』など「人権」にかかわる項目で評価が下がっており、いま一度振り返る必要がある。

評価の低かった項目

他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある。

最近、特に利用者へのサービス提供に関する悩みをもち続けている

最近、特に仕事にやる気を感じない事がある

昨年に比べて評価の下がった項目

身体拘束を行なう場合は、本人及び家族等へ説明し同意の上、必要な記録を残している。

利用者のさん付けが徹底できている。

利用者を長時間待たせたり、放置しないようにしている。

昨年に比べて評価の上がった項目

他の職員の利用者への対応について、問題があると感じたことがある。

障害者虐待防止法を知っていますか？

上司とは日々のサービス提供に関わる相談を含め、コミュニケーションがとりやすい雰囲気である。

14. 安全管理の状況

(1) 防災

防災計画に基づき、避難訓練及び防火訓練を実施した。

月日	内容	
6月21日	総合訓練	居住棟2階娛樂室より出火を想定した避難訓練、模擬通報訓練、3階の消火栓を使用した消火訓練実施。
9月19日	部分訓練	管理棟1階事務所より出火を想定した初期消火、避難訓練、通報訓練。施設外への2次避難実施。
12月20日	総合訓練	居住棟1階静養室より、出火を想定した避難訓練、模擬通報訓練、水消火器による消火訓練実施。消防署員指導による救命救急、AEDの使い方講習を開催。
3月28日	総合訓練	夜間帯を想定した訓練。1階管理棟洗濯室より出火を想定した避難訓練、模擬通報訓練、水消火器による消火訓練を実施。

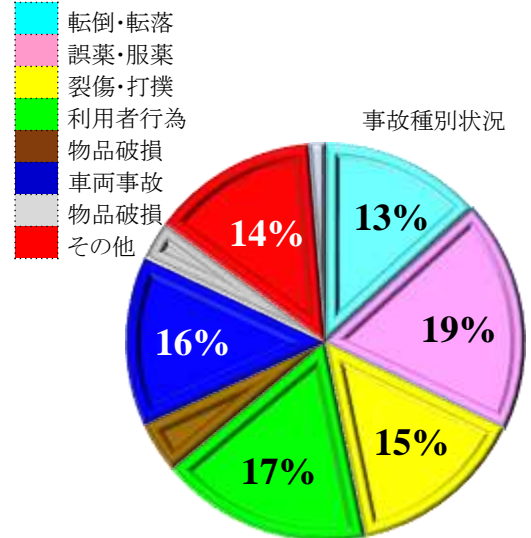
足柄療護園 避難訓練実施実績

(2) リスクマネジメント（事故報告）

リスクマネジメント報告書による**事故件数は383件**で前年の435件を50件ほど下回った。事業所別では足柄療護園が**250件**（前年304件）で、**全体の65%**（前年70%）を占め、プレアデスでの件数が増えている。内容別では、部署により違いが見られ、足柄療護園では**服薬・誤薬**が最も多く**23%**、次いで**転倒・転落と裂傷・打撲**が**16%**となっている。一方、プレアデスでは利用者行為によるものが**29%**を占める。**救急車による搬送**を必要とした大きな事例（ライフガード）が**5件（急変）**発生した。**転倒等による事故により施設車両による緊急通院は11件発生した。**

	足柄療護園	県西福祉C	プレアデス	合計	
転倒/転落	40	5	6	51	13.3%
服薬/誤薬	57	2	13	72	18.8%
裂傷/打撲	40	3	13	56	14.6%
利用者行為	31	2	33	66	17.2%
医療ケア	15	1	0	16	4.2%
物品破損	34	1	18	53	13.8%
車両事故	2	1	9	12	3.1%
その他	27	3	22	52	13.6%
ライフガード	4	1	0	5	1.3%
合計	250	19	114	383	
	65.3%	5.0%	29.8%		

リスクマネジメント報告書内容



(3) インシデント(ヒヤリハット)

ヒヤットと共有書によるインシデントの件数は**1年間で211件**と前年の324件に比べ大きく減った。要因としては、足柄療護園の利用者行為にかかわる内容が**110件減**ったことによる。

内訳では、車いすから落ちそうになっていたなどの**転倒/転落**が最も多く**47件**（前年35件）、自力による移乗などの**利用者行為**にかかわる内容が**37件**（前年147件）、薬の飲み忘れなど**服薬**にかかわる内容は**31件**（前年56件）であった。

部署別では、足柄療護園が**153件**と7割を超える。

15. コミュニティ(地域交流)の状況

(1) 地域との交流

秋まつりやプレアデス祭では多くの地域の方々に参加していただいた。3月3日に地域にも声掛けし障害者福祉啓発を目的に足柄ふれあいセミナーを開催し62名(外部17名)が参加した。



足柄療護園秋まつり

(2) 利用者講演

障害者福祉啓発活動として実施し、11年目を迎えた。

施設見学時にも講話を行うなど、22回1,014名に対して実施し、累計聴講者数は8200名を超えた。

月日	依頼元	対象者	参加者	利用者
H30.5.21	神奈川県立高浜高校	1年生	240	1
H30.6.28	神奈川県立大井高校	社会福祉援助技術選択者2年生	11	2
H30.9.11	厚木市荻野地区民児協	民生児童委員研修会	30	1
H30.10.29	小田原短期大学	保育学科1年生①	120	2
H30.10.31	足柄台中学校	1年生	145	3
H30.11.1	都立東部療育センター	利用者&職員	20	1
H30.11.13	中央医療健康大学校	理学療法学科 1年生	42	2
H30.11.21	北里大学医療衛生学部	言語聴覚療法学専攻1年生	30	2
H30.12.11	日本女子大学	社会福祉学科1年生	120	1
H31.2.22	茅ヶ崎リハビリテーション	言語聴覚学科1年生	35	2

主な利用者講演実績

(3) 地域自治会との連携

『ふくらん』の出張販売を機会として、自治会のお祭りや文化祭など13の自治会(前年14)にお声掛けいただき、出店参加し、地域との交流をはかることができた。

また、足柄療護園、県西福祉センターでは「三竹」、プレアデスでは「関本」の自治会文化祭に利用者作品を出展させていただいた。



利用者講演
於:茅ヶ崎リハ専門学校

16. 広報の状況

(1) 広報誌『やまぶき』の発行

広報委員会において広報誌「やまぶき」の発行を行った。利用者の活動や生活の様子を伝えることを主に年4回発行し、利用者・ご家族、地域自治会、関連業者、行政を含めた関連機関等へ約650部印刷し配布した。

通巻	発行日	主な内容
65号	4月30日	平成30年度事業計画 各事業所ニュース 他
66号	7月30日	平成29年度事業報告 プレアデス祭報告 他
67号	11月30日	秋まつり特集 各事業所ニュース 他
68号	1月31日	新年のあいさつ 創作ボランティア特集 他

やまぶき発行実績

(2) ホームページ&SNS

足柄療護園のホームページは、定期的な活動を中心に更新を行った。また、県西福祉会、足柄療護園、県西福祉センターのフェイスブックページを活動やイベントを中心に随時更新した。また、職員採用につながることを目的に、新たに『求人特設サイト』を開設した。

ふくらんについては専用のホームページやフェイスブック(“いいね!”は1,209)、インスタグラム(フォロワー774人)を活用し、認知力向上につとめた。



求人特設サイト

17. 渉外関係(家族会・実習生/研修生等)他

(1) 実習生・研修生の受け入れ

実習受入実績

足柄療護園では言語聴覚士の実習や大井高校の実習や教員免許取得介護体験実習を受入れた。

プレアデスでは、小田原短期大学保育学科7名の実習等を受入れた。また、小学生の地域学習や中学生の職場体験を受入れた。

	内容	依頼先	受入数	実習期間
足	ST実習	北里大学	1	8/13～9/22(30日)
足	ST実習	大阪医専	1	9/25～10/22(20日)
足	援助技術	県立大井高校3年生	9	6月、10月(3日)
足	介護実習	県立大井高校2年生	11	11月8日
ブ	市教育研究会	小中技術・家庭教員	13	8月23日
ブ	教員免許取得	神奈川県社協	2	11/5～9,11/12～16
ブ	地域学習	南足柄小学校2年生	91	12月18日
ブ	地域学習	南足柄小学校4年生	99	3月4日,6日,11日
ブ	保育実習	小田原短期大学	7	8月(2週間)
ブ	保育実習	鎌倉女子短期大学	2	8月(2週間)
ブ	職場体験	足柄台中学校	2	10月30日～31日
ブ	職場体験	南足柄中学校	1	11月13日～14日
ブ	職場体験	城山中学校	2	2月7日

(2) 自治会(三竹会)活動

施設入所者自ら自治会を組織し活動を実施してきたが、平成22年度より役員選出が滞り、実質活動休止状態となっている。

(3) ご家族との交流等

足柄療護園全入所者のご家族を対象に足柄療護園家族会を組織している。会費納入者は42家族。5月と12月に家族会全体会を開催し、終了後、施設清掃にご協力いただいた。また、5月には親睦パーティーを開催し、職員・ご家族同士の親睦を深めた。秋まつりではバザー品の販売を行い売り上げは80,240円であった。(平成30年度会長:伊藤千恵子氏)

プレアデスでは、8月に家族をお招きし、夕日の滝でバーベキューを行った。また、ホーム利用者のご家族には12月の大掃除をお手伝いいただいた。



プレアデスBBQ



足柄療護園家族会懇親会

5月 27日	家族会総会 参加21家族27名	総会 / 懇親会 施設清掃協力
10月 8日	秋まつり準備 役員等4家族5名	バザー品の 値付け
10月 21日	秋まつり協力 役員等5家族8名	秋まつり協賛 バザー販売等
12月 23日	家族会全体会 参加19家族23人	クリスマス会協賛 施設清掃協力
3月 3日	役員選出会議 役員等10族13名	役員選出

足柄療護園家族会活動実績

(4) 施設見学

足柄療護園では、施設紹介や障害福祉啓発のため、施設見学の積極的な受入を実施した。ホームページで施設見学を紹介していることもあり、問い合わせが多くなっている。横浜市港南区女性団体連絡協議会など11団体208名が見学に来られた。施設見学の際には、利用者の講話など足柄療護園独自の取り組みを行った。また、見学時には「ふくらん」の見学も加えたり、「ふくらん」の出張販売を組み合わせ、購買につなげた。



横浜市港南区女性団体連絡協議会
見学41名

18.施設再整備計画の推進状況

平成13年4月に開設した施設は18年が経過し、経年劣化による設備の更新時期を迎えており、施設運営を継続していくうえでも施設の再整備を計画的に進めていくこととし、平成28年から「施設再整備3カ年計画」に基づき、順次更新工事等に着手してきた。

更新工事等の実施状況

施設整備3カ年計画	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	実施	実施	実施
空調設備更新工事	○	○	○
外壁塗装		○	
屋上・屋根防水工事		○	
大型洗濯機更新工事	○		
大型乾燥機、汚物処理器更新工事			○
給湯チラー更新工事	○		○
照明設備・非常用照明等更新工事	○		
車椅子式浴槽及び寝台浴槽の更新			○

平成30年度 部門別重点実施事項 実施報告

生活支援課	年度重点実施事項		実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	わくわく委員会を中心に活動の整理・見直しを行い、より個別支援計画と連動した活動の実践を行う。	4	わくわく委員会・日中担当者とともに活動の整理を行った。個別支援における活動について、担当支援員と日中活動担当者との連携し支援を行うことができた。
魅力的な就労支援サービスの確立			
その人らしさを引き出す役割支援の強化	いきいき委員会において役割支援の検討を行い、本人を中心とした支援につなげる。利用者講演の継続的な支援を行う。	3	継続的な利用者講演会の支援を継続することはできたものの、本人を中心としたその人らしさの新たな役割をとまなう支援を行うことはできなかった。
利用者意向確認の強化	利用者意向調査を実施し、本人や家族の意向や要望を多方面からくみ取り、より良い生活へ反映できるようにしていく。	3	利用者意向調査やご家族のモニター会を行い、多方面における意見のくみ取りを行うことはできたものの、生活の向上に結び付けるに至らなかった。
運営体制の強化	安心・安全に生活が送れるよう、施設長・課長・リーダー・サブリーダー・各担当の役割を再整理し連携強化をはかる。	3	各ポジションの役割など見直し支援体制の見直し。安定的な支援を継続することはできたものの、人手不足による不安定な部分に対して課題となった。
成年後見制度利用促進と権利擁護意識の向上	成年後見人制度の活用を周知する。施設という集団生活の場の中であっても利用者ひとりひとりを大切にす意識の向上に努める。	3	成年後見制度活用のための支援など、一人一人の状況に応じて対応を行い、新たな後見制度活用につながった。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	専門職と連携し、利用者の支援方法の再チェックを実施する。組織体制の強化とともに中堅職員等のリーダーシップの向上を目指す。	4	リハビリ担当・看護職等と連携し、支援方法の向上を実施できた。職員個々の差はあるもの全体的な組織としての能力向上を果たすことができた。
利用しやすい地域サービスの実現	短期入所利用の事前調整を行い、95%の稼働率を維持する。相談事業所・病院等と連携し、安心して受入ができるように対応を行う。	4	短期入所の事前調整等を行い、稼働率維持に努めたが、キャンセル等により目標稼働率到達には至らなかった。短期入所担当者を中心に、ご家族・相談機関・他短期入所事業所と連携し、安心して利用につなげた。
あらたな地域拠点拡充に向けた準備	短期入所などの強化に向けた検討及び、対応の整理などの準備を行う。	4	受入れ体制の確立には至らなかったが県西圏域外の利用受入などを行った。
地域貢献事業の検討	短期入所事業における65歳以上の方が継続して利用が可能な検討と対応基準の明確化を行う。	2	短期入所の65歳以上の受入については検討を行うことができなかった。
教育機関及び地域との連携強化	地域の事業所等を対象としたオープン研修の実施を通じ連携を強化する。また、学校等を対象にボランティア養成や実習生の受入調整を行う	2	オープン研修については事前の周知不足により参加を募ることができなかった。ボランティア募集に係り学校への声かけなど強化することができた。
地域福祉課	年度重点実施事項		実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	日中プログラムを強化する。年間計画に沿った外出プログラムを実施する。第4土曜日の食のイベントの見直しと強化をおこなう。	3	月間の日中活動を継続して行ってきた。土曜日のイベント時は新たにポッチャを取り入れるなど少しずつ新しいものを取り入れるようにした。
魅力的な就労支援サービスの確立	作業の効率化や作業の安定化をすすめ工賃向上に努める。新たな受注先や作業に見合った仕事を確保する。工賃規定の見直しを行う。	3	時給換算においては時給135円と昨年度と同額であったが、月の平均工賃は444円減の4,147円となった。受注においては年間を通して確保できた。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	個別支援に沿って個々の活動を明確にし、強化する。定期的なモニタリングを実施する。利用者講演に向けた支援を行う。	4	個々のニーズ、障害特性にそった支援を提供した。定期的なモニタリングを実施し個別支援計画に反映させた。
利用者意向確認の強化	相談支援事業所との連携を強化し情報の共有をすすめる。サービス利用計画に沿った支援を実施する。	4	相談事業所と連携しサービス利用計画のニーズや施設の役割を理解し個別支援計画を作成した。また、定期的なモニタリングを行い、相談事業所、関係機関等と情報を共有した。
運営体制の強化	各事業の業務見直し改善をはかり、体制を強化する。各事業の特性を活かしたサービスを提供する。	3	通所3事業の特性を活かし、サービスの提供に努めた。各事業とも業務の改善に取り組んだ。
成年後見制度利用促進と権利擁護意識の向上	利用者・家族への成年後見制度の利用をすすめる。利用者接遇意識を高め人権意識の向上をはかる。	3	会議等を通じ利用者接遇意識や人権意識の向上をはかった。成年後見制度について、利用者にアンケートモニターに参加していただいた。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	研修に積極的に参加し専門知識・マネジメント力を強化する。各職員の役割を強化し支援員の能力向上を行う。	3	積極的に研修に参加できるよう業務調整を行い、参加した。それぞれの役割を明確にして、支援・活動につなげた。
利用しやすい地域サービスの実現	地域・関係機関等への通所事業の役割を周知し、より利用しやすいサービスを提供する。年間利用者延べ人数11000名を目指す。	2	事業全体で、長期入院や退所者が多かった。新規利用者受け入れを積極的に行ってきたが、結果、全体で延べ利用者数8,964名となった。
あらたな地域拠点拡充に向けた準備	地域の適正・ニーズにそったサービスを提供する。また、事業拡充に向けた新たなサービス提供のあり方の検討を行う。	2	個々の適正やニーズにそった通所サービスを提供できた。新たなサービスを展開するまではいかなかった。
地域貢献事業の検討	地域や社会福祉事業者と連携し障害福祉啓発活動をすすめる。	4	地域の文化祭、足柄上地区のちいき・ふくし博等に参加し、作品展示や施設紹介ポスター等にて障害福祉啓発活動をすすめた。
教育機関及び地域との連携強化	養護学校・特別支援級の体験実習の受入れを強化する。定期的な情報交換を行う。	4	小田原養護学校の体験実習生2名を受入れ、情報交換をはかった。

平成30年度 部門別重点実施事項 実施報告

プレアデス	年度重点実施事項	実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	日中活動について、個別支援計画との連動をはかり、利用者個々に合わせた活動目的を明確にする。	4 個別支援計画を再度、利用者視点に着目して作成した事で、日々の活動に対して明確化した裏付けを持って支援する事ができた。
魅力的な就労支援サービスの確立	新規受注先企業を開拓するとともに、現在取引のある企業の受注品目、単価の見直しを行うことで、工賃向上を目指す。	4 新たに作業により、幅広く障害特性に対応できるように工賃の底上げにつながった。また、利用者により特定の作業を専属することで、作業意欲が向上した。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	利用者が個別支援計画の短期目標を、達成感を感じ自信につながるように個々のニーズを拾い上げ計画に反映し支援する。	4 モニタリング期間を短く設定し、利用者本人にも細かな成長や課題を把握してもらうことができ、以前に比べ自己肯定感につながる行動や言動が増えた。
利用者意向確認の強化	精神障害や発達障害の方を積極的に受入れるために必要な体制を整える。	4 精神障害や不安を抱えている新規利用者にはサービス提供前に通常より多くのアセスメント時間を設け、利用後も定期的な面談予定を事前に設定した。
運営体制の強化	職員が担当以外の事業所にヘルプに入る際、利用者支援が円滑に行なえるように、支援内容を一目で分かるように整備する。	5 作業指示書を常備する事で、初めての職員が支援を行っても統一したサービスを提供できるようになり、利用者が混乱することなく活動に参加できた。
成年後見制度利用促進と権利擁護意識の向上	KWネットワークの相談員と連携をはかり、利用者の言葉では出てこない思いを受け止めて行く。	4 相談員が聞き出した情報を職員間で共有し、支援にフィードバックしたことで、利用者の思いを具現化する事ができ、利用者満足につながった。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	定期的な事例を活用した、小グループでのディスカッション形式の研修を実施し支援の見立ての幅を広げる。	5 2~3名を1グループとして、アセスメントの視点などについての研修を実施し、権利擁護にも着目した支援計画を立てることができた。
利用しやすい地域サービスの実現	生活介護利用者の重度化に伴う、サービス提供体制の見直しをおこなう。送迎のあり方を検討する。年間利用者延べ人数14000名を目指す。	3 生活介護では活動内容と場所の修正を定期的実施した。送迎については次年度の新規受入れ者を急頭に入れ新たに組みなおした。
あらたな地域拠点拡充に向けた準備	医療機関から地域移行される方について、退院前から調整を行うことで、円滑に地域受入れを行なえるようにしていく。	4 精神病院からの退院者や他者と関わりが苦手な利用希望者に関しては、事前に関係機関との打ち合わせを重ね、本人がどのような状態になっても関係機関で円滑にサポートできるように役割分担を構築した。
地域貢献事業の検討	就労B型及びGH利用者で65歳以降もサービスを継続して提供していくことが出来るよう検討する。	5 高齢の利用者に対し、今後の人生設計についての話し合いを実施した。また、本人の希望に沿って可能な限り具体的な行動目標を本人と作成し支援を行った。
教育機関及び地域との連携強化	大学・専門学校での保育実習生の受入れ枠を増やし、多くの学生へ障害福祉現場の体験を通じ、関心をもってもらおう。	4 2校の大学から合計9名の実習生を受入れ、可能な限り利用者とする時間を多く設定するなど、障害者ではなく一人の人間として関心を持って頂く工夫をした。

プレアデスホーム	年度重点実施事項	実施結果
日中支援のあり方検討と個別支援の充実	活動希望など、利用者の意向を取り入れ、外出や行事などを整理し、個別支援計画と連動したホームでの余暇支援の充実に努める。	4 個別支援計画に沿って活動や行動計画を本人と話し合い実施した。ヘルパー外出や職員同行のもと、公共機関利用した遠出の外出も実施した。
魅力的な就労支援サービスの確立	一般就労に結び付けられるよう個々の能力を引出し、就労している利用者へは定着できるようホームでの生活をサポートする。	4 就労に結び付けられるようホームでの生活面も含め、本人を含めたカンファレンスを定期的実施した。ホームでは健康面や食生活を重視した。
その人らしさを引き出す役割支援の強化	本人の思いを実現するために、ご家族関係者と連携し、向かうべき目標を本人と一緒に検討する。	5 療養休暇中の利用者に対し、ご家族関係者、企業と連携し、本人の思い実現のため、職場復帰に向けたリハビリ、通勤訓練、職場実習を経て職場復帰を実現した。
利用者意向確認の強化	各関係機関と連携し、本人が望む生活、就労、余暇などを送れるよう、必要に応じて本人を含めたカンファレンスを行う。	4 各行政、相談支援機関、養護学校など、本人の望む生活をカンファレンスにてモニタリングし、生活面、余暇支援、健康面について利用者個々に合わせ支援してきた。
運営体制の強化	ホームの利用者増に伴う専従職員配置増により、生活支援員、世話人業務の確立を行い、支援体制や運営体制を強化する。	3 各ホームの利用者数が定員に達してきたこともあり、生活環境や各利用者の生活リズムなど、世話人会議を中心に利用者個々の支援体制の確立を行った。
成年後見制度利用促進と権利擁護意識の向上	KWネットを活用し、利用者対応等を振り返る。また、成年後見人制度利用啓発の為、ご家族関係者に重要性を説明する。	3 利用者、ご家族関係者と面談時に、現状について再確認し、金銭管理、財産管理、将来への不安など見受けられる利用者を中心に後見制度利用の促進をはかった。
専門的知識の習得とマネジメント力の向上	世話人を対象に、利用者の障害特性を学習するなど、世話人向けの勉強会を会議等で企画・実施する。	4 世話人会議にて、障害特性について議題にあげ、意見交換を行ってきた。また、世話人を含め、プレアデス職員対象に虐待・拘束の研修を行った。
利用しやすい地域サービスの実現	空所部屋を利用し、緊急一時保護や体験利用の受入を積極的に行い、今後のホームでの生活支援を本人と一緒に組み立てていく。	4 体験利用を積極的に行い、8名に対し体験利用を36日実施した。入居に向けた体験とは別に、GH生活を体験するニーズの相談も見られた。
あらたな地域拠点拡充に向けた準備	新たなグループホーム拠点を軸に地域と密着し、暮らしやすい生活環境作りを実現する。	4 近隣を散策し、医療機関、買物、コンビニなど生活支援を整えた。また、地域自治会や福祉会を通じ、地域において、GH生活の理解を深めて頂けるよう支援した。
地域貢献事業の検討	やまさきホームを中心にホーム事業の運営安定化をはかり、今後の展開につなげる。	4 GH専従職員を中心に、支援の対応強化を図り、利用者増へとつなげた。
教育機関及び地域との連携強化	教育機関、養護学校の体験実習や地域のボランティアなどと連携し、積極的な受入れを行う。	4 地域自治会や福祉会を通じてイベント等に参加し、模擬店出店の手伝い等にボランティアで関わることができた。また、近隣住民等との挨拶や会話を心掛け、GHの存在を深めていった。

平成30年 事業報告

